

2017/8/10

## 柏の景気情報（平成29年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成29年7月分）

○ 調査期間 : 平成29年7月26日 ~ 平成29年8月1日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	19	43.2%
製造	33	17	51.5%
卸・小売	43	21	48.8%
サービス	36	13	36.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成29年7月の調査結果のポイント】

◀業況DIは2ヶ月連続で好転。先行きは懸念材料多く、横ばいで推移する見通し▶

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が5.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.5(同▲38.0)、建設業▲10.5(同▲18.7)、サービス業▲7.6(同▲11.7)である。変らない業種は、製造業△5.8(同△5.8)である。

【建設業】からは、「7月は前年同月比で同水準を維持できました。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「紙の値段がまた上がる。紙が上がるからと印刷物も値上げする事は出来ない。利益追求どころか赤字にならない様にする事で考え方がせまくなり目先の事に神経がいつてしまう。」(印刷業)、「原料価格は相場の影響により不安定が続いている。」(特殊産業用機械)、「中国の設備投資・半導体製造設備・自動車製造設備の増加により、電気部品だけでなくメカ部品にまで品薄状態が波及。機械納期に大きな影響を及ぼしている。」(その他の機械・同部品製造業)、「受注は増加傾向にあるが、単価の値下げ要望があり、採算は変わらない。」(その他の金属製品製造業)、「現在の景況では従業員を増加することは出来ない。増加すれば、社会保険・税金などで資金繰りが追い付かない。運転資金の借入は生産的ではないと思っている。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「前月に続いて冷菓の売上が好調。イベントの季節なのでそちらも期待！」(菓子・パン小売業)、「業界では町場の店で社会保険問題があるようだ。」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「売上増・掛売り増ですが、資金繰りが大変。このため借入金と金利負担の増額あり。」(その他の飲食料品小売業)、「柏の葉キャンパス駅、流山おおたかの森駅、周辺に続々とスーパー、ホームセンターの出店と出店計画あり。今後の業績が心配。」(その他の飲食料品小売業)、「個人旅行では、北朝鮮の動向を気にされ、韓国への旅行を控える傾向。」(旅行業)、「柏駅周辺は、他力本願の企業・店が悪化しているだけで、一部の人が言うほど落ち込んではない。通行量ではない。」(不動産賃貸業)、「地価高騰も二極化で限定的。昨今の金融政策の結果であると思う。それに伴う消費経済の上昇は感じないながらも下落感も感じないので安定している経営状態と判断する。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順(猛暑)・夏物商戦

各業種より、「梅雨とは思えない天候と気温上昇があり、水着関連は売上を伸ばしたが、それ以外の衣料品については低迷。原因は暑さで客数が減る傾向となった。」(その他の各種商品小売業)、「酒関連は今年6月からの“酒税法改正”により今までの安売りが出来なくなったが、暑さもあり、さほど影響は出ていない。」(その他の各種商品小売業)、「夏のバーゲンも縮小傾向にある。高温日が多く、夏限定商品を除いて全体的に不調。」(その他の各種商品小売業)、「猛暑のせいでお客からの問い合わせが減っている。それにより賃貸・売買ともに低調。」(不動産管理業)との声が寄せられた。

◎仕入単価上昇

各業種より、「紙の値段がまた上がる。紙が上がるからと印刷物も値上げする事は出来ない。」(印刷業)、「原料価格は相場の影響により不安定が続いている。」(特殊産業用機械)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「人手不足の影響で今後のコストアップの懸念がある。」(各種食料品小売業)、「人手不足の影響で退職者が出てても事業に支障の無いように剰余従事者の採用を取り入れているので、この分の社員2名分ほどの人件費増で厳しい。それでも人手不足は深刻。」(その他の飲食料品小売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲22.2	▲20.0	△5.8	▲45.4	▲23.0
3月	▲13.3	▲10.0	△5.8	▲50.0	△12.5
4月	▲20.5	▲17.6	▲11.1	▲41.6	±0.0
5月	▲23.9	▲27.7	▲22.2	▲35.0	▲6.6
6月	▲16.9	▲18.7	△5.8	▲38.0	▲11.7
7月	▲11.4	▲10.5	△5.8	▲28.5	▲7.6
見通し	▲12.8	▲15.7	△11.7	▲28.5	▲15.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年7月の業況についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が5.5ポイント縮小した。

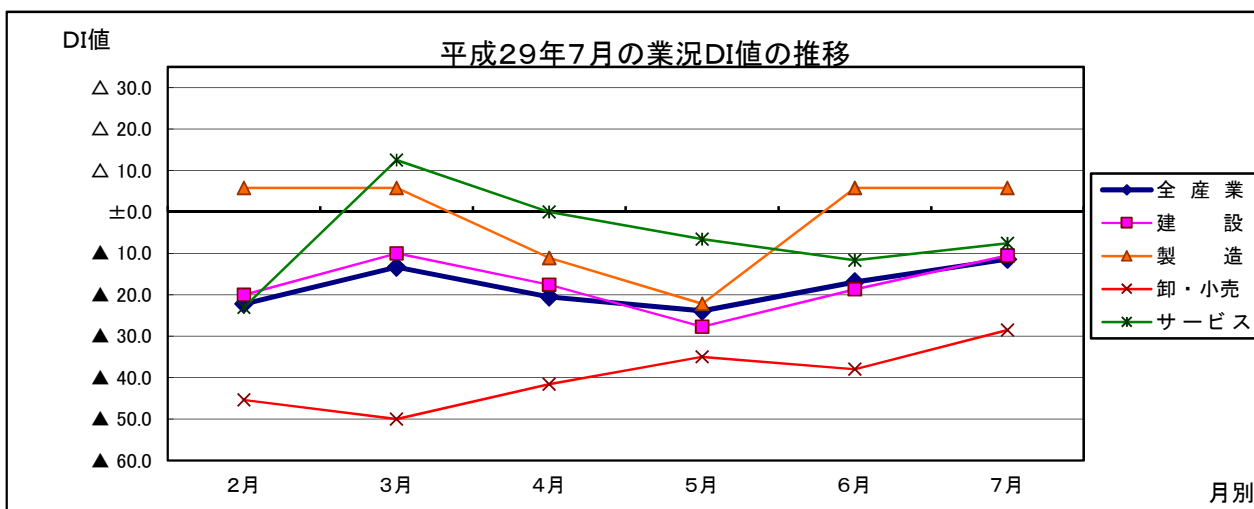
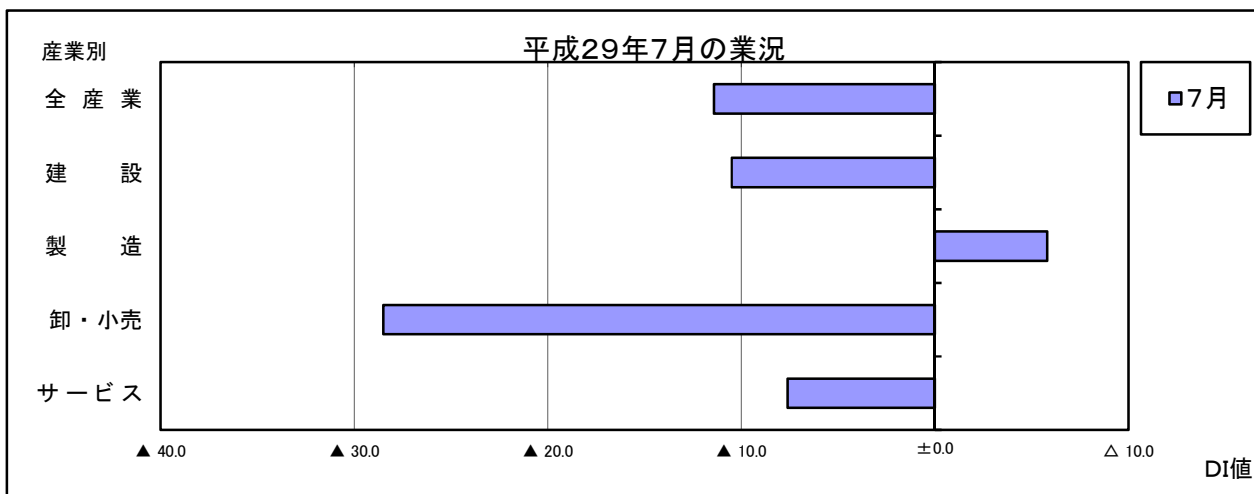
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.5(同▲38.0)、建設業▲10.5(同▲18.7)、サービス業▲7.6(同▲11.7)である。変らない業種は、製造業△5.8(同△5.8)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.8(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が3.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△11.7(同△5.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲28.5(同▲33.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲15.7(同△6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲15.3(同▲11.7)である。

平成29年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲22.2	▲13.3	▲20.5	▲23.9	▲16.9	▲11.4	▲12.8(▲9.8)
建設	▲20.0	▲10.0	▲17.6	▲27.7	▲18.7	▲10.5	▲15.7(△6.2)
製造	△5.8	△5.8	▲11.1	▲22.2	△5.8	△5.8	△11.7(△5.8)
卸・小売	▲45.4	▲50.0	▲41.6	▲35.0	▲38.0	▲28.5	▲28.5(▲33.3)
サービス	▲23.0	△12.5	±0.0	▲6.6	▲11.7	▲7.6	▲15.3(▲11.7)



【平成29年7月の売上についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.7(同▲22.5)となり、マイナス幅が6.8ポイント縮小した。

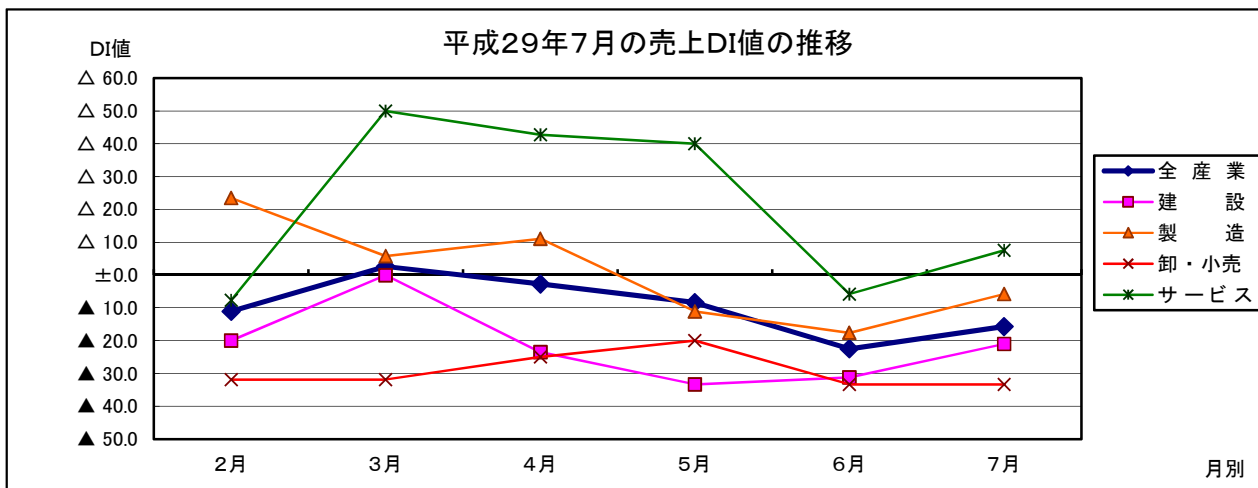
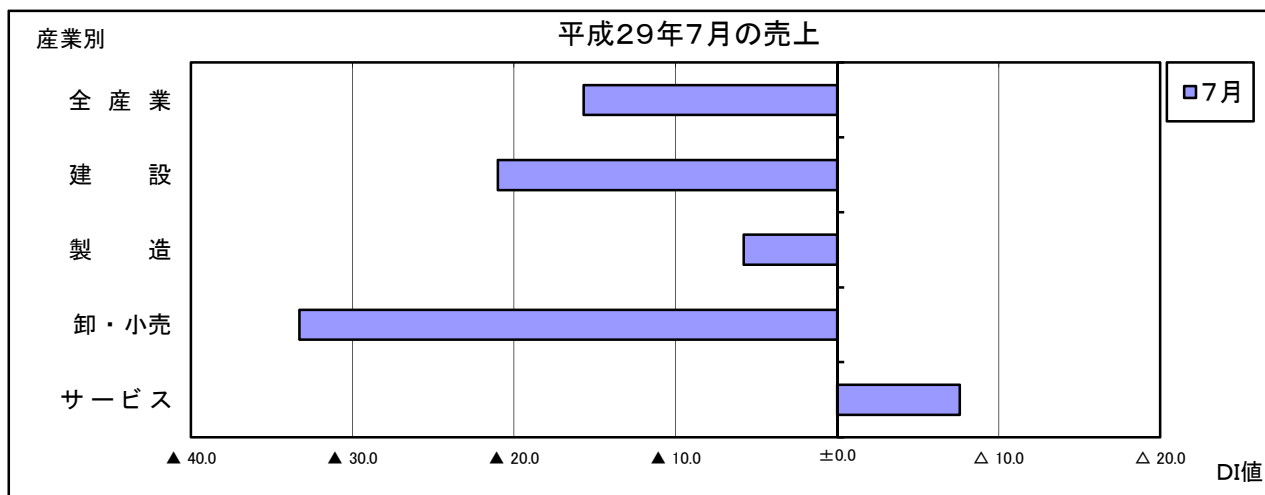
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△7.6(同▲5.8)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同▲17.6)、建設業▲21.0(同▲31.2)である。変らない業種は、卸小売業▲33.3(同▲33.3)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.0(前月水準▲4.2)となり、マイナス幅は5.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、建設業△25.0(同△25.0)、製造業△5.8(同△5.8)、卸小売業▲28.5(同▲28.5)、サービス業▲11.7(同▲11.7)である。

平成29年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲11.1	△2.6	▲2.7	▲8.4	▲22.5	▲15.7	▲10.0(▲4.2)
建設	▲20.0	±0.0	▲23.5	▲33.3	▲31.2	▲21.0	△25.0(△25.0)
製造	△23.5	△5.8	△11.1	▲11.1	▲17.6	▲5.8	△5.8(△5.8)
卸・小売	▲31.8	▲31.8	▲25.0	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲28.5(▲28.5)
サービス	▲7.6	△50.0	△42.8	△40.0	▲5.8	△7.6	▲11.7(▲11.7)



【平成29年7月の採算についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.0(前月水準▲18.3)となり、マイナス幅は1.7ポイント拡大した。

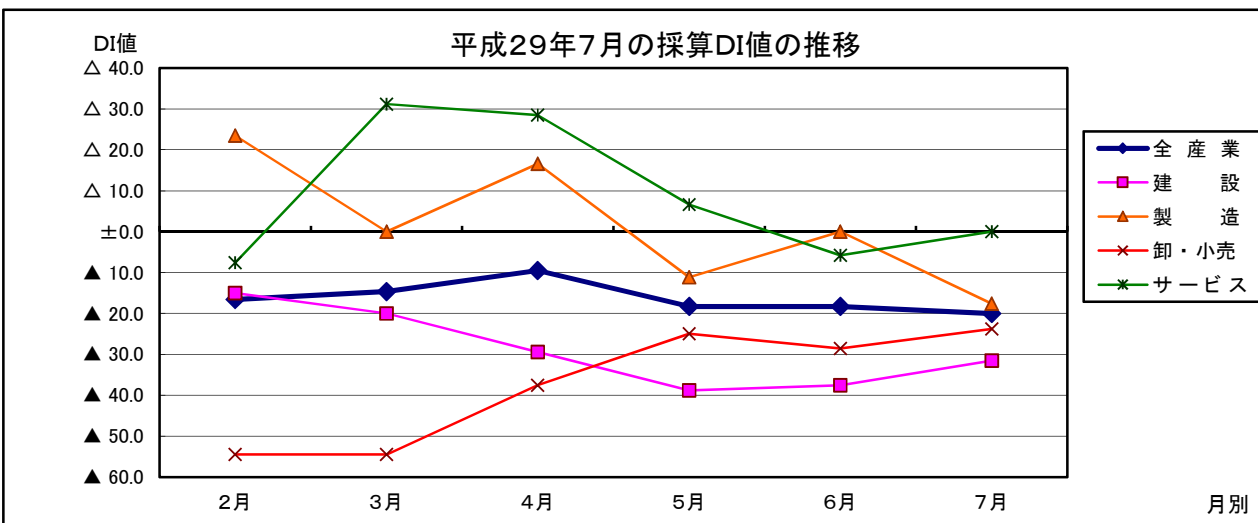
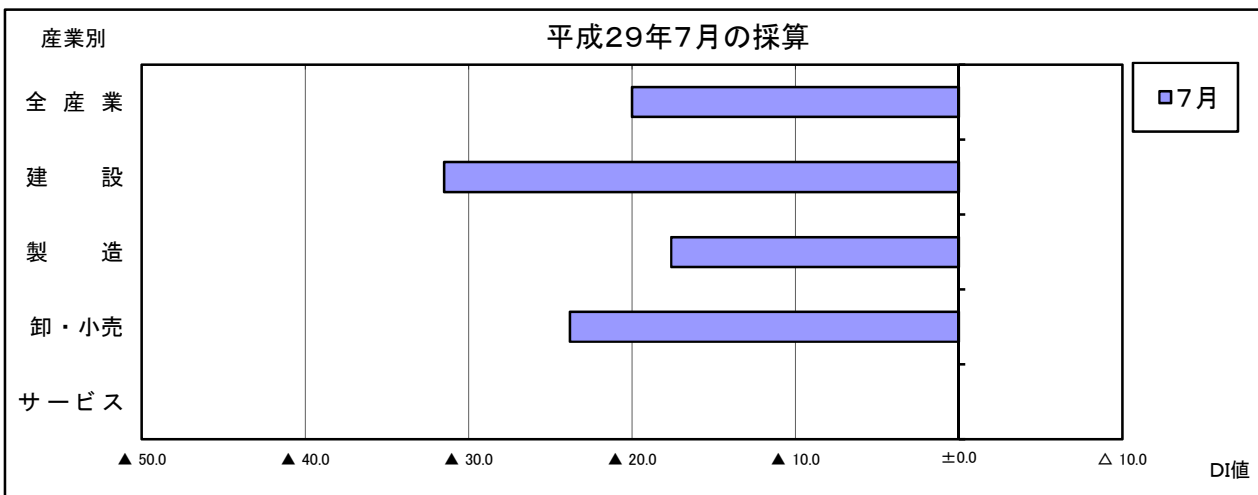
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲31.5(同▲37.5)、サービス業±0.0(同▲5.8)、卸小売業▲23.8(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲17.6(同±0.0)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0(前月水準▲8.4)であり、マイナス幅が11.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、製造業△6.2(同△6.2)、サービス業▲5.8(同▲5.8)、卸小売業▲38.0(同▲38.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.8(同△11.7)である。

平成29年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲16.6	▲14.6	▲9.5	▲18.3	▲18.3	▲20.0	▲20.0(▲8.4)
建設	▲15.0	▲20.0	▲29.4	▲38.8	▲37.5	▲31.5	△6.2(△6.2)
製造	△23.5	±0.0	△16.6	▲11.1	±0.0	▲17.6	▲5.8(△11.7)
卸・小売	▲54.5	▲54.5	▲37.5	▲25.0	▲28.5	▲23.8	▲38.0(▲38.0)
サービス	▲7.6	△31.2	△28.5	△6.6	▲5.8	±0.0	▲5.8(▲5.8)



【平成29年7月の仕入単価についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.5(前月水準▲26.7)となり、マイナス幅が1.8ポイント拡大した。

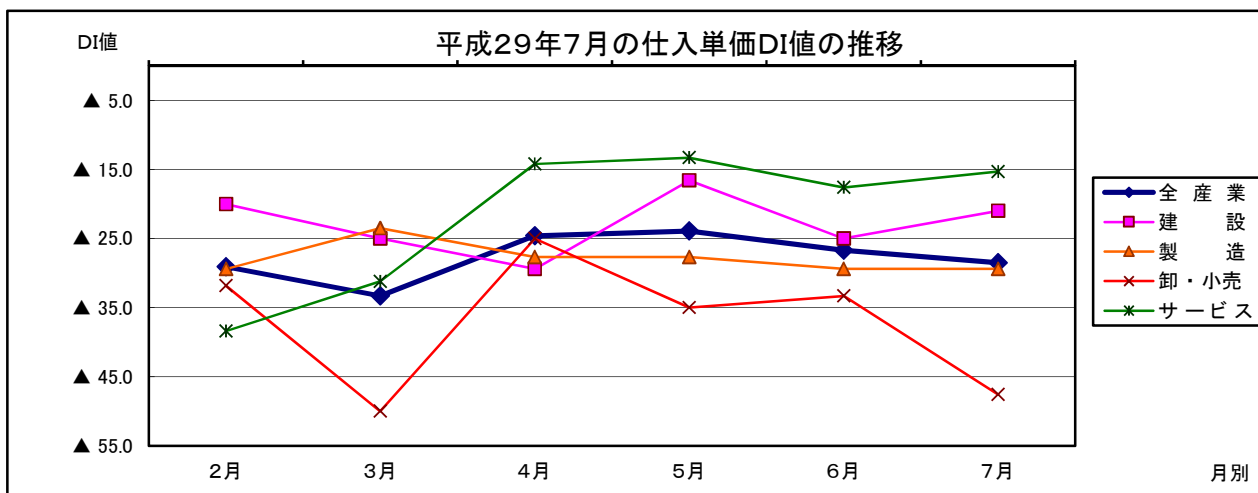
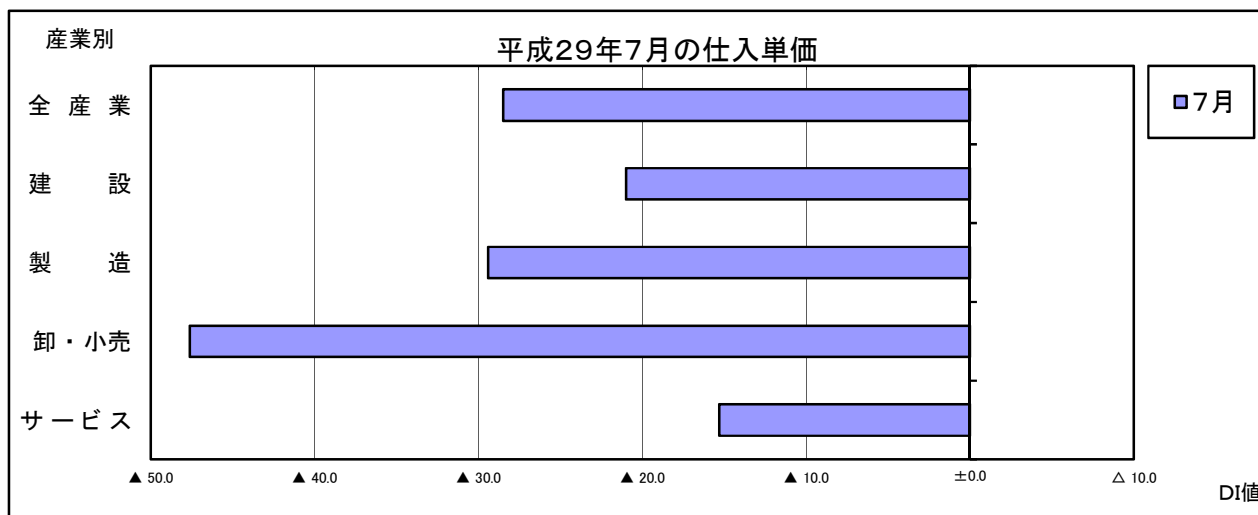
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.0(同▲25.0)、サービス業▲15.3(同▲17.6)である。変らない業種は、製造業▲29.4(同▲29.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲47.6(同▲33.3)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.5(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が7.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲15.3(同▲17.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲23.5(同▲11.7)、卸小売業▲42.8(同▲33.3)、建設業▲26.3(同▲18.7)である。

平成29年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲29.1	▲33.3	▲24.6	▲23.9	▲26.7	▲28.5	▲28.5(▲21.1)
建設	▲20.0	▲25.0	▲29.4	▲16.6	▲25.0	▲21.0	▲26.3(▲18.7)
製造	▲29.4	▲23.5	▲27.7	▲27.7	▲29.4	▲29.4	▲23.5(▲11.7)
卸・小売	▲31.8	▲50.0	▲25.0	▲35.0	▲33.3	▲47.6	▲42.8(▲33.3)
サービス	▲38.4	▲31.2	▲14.2	▲13.3	▲17.6	▲15.3	▲15.3(▲17.6)



【平成29年7月の従業員についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△18.5(前月水準△12.6)となり、プラス幅が5.9ポイント拡大した。

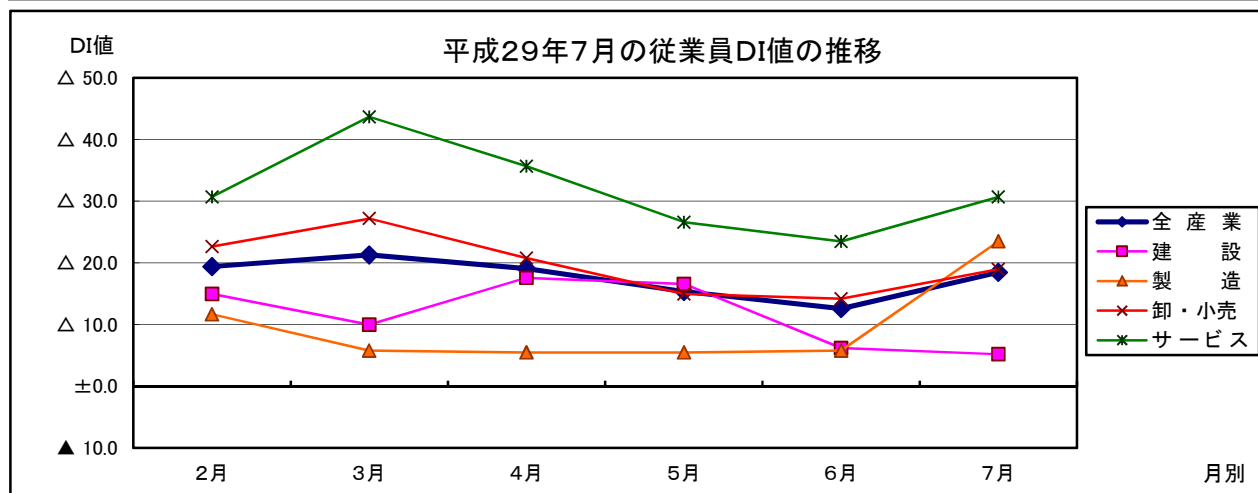
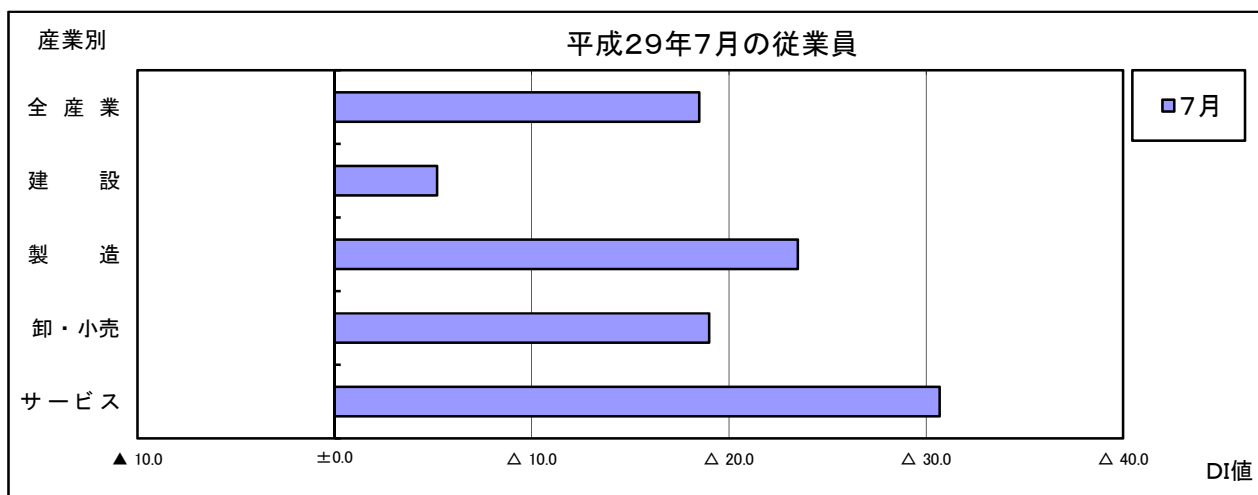
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△23.5(同△5.8)、サービス業△30.7(同△23.5)、卸小売業△19.0(同△14.2)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△5.2(同△6.2)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△21.4(前月水準△18.3)であり、プラス幅が3.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△35.2(同△23.5)、建設業△15.7(同△12.5)である。変らない見通しの業種は、卸小売業△14.2(同△14.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△23.0(同△23.5)である。

平成29年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△19.4	△21.3	△19.1	△15.4	△12.6	△18.5	△21.4(△18.3)
建設	△15.0	△10.0	△17.6	△16.6	△6.2	△5.2	△15.7(△12.5)
製造	△11.7	△5.8	△5.5	△5.5	△5.8	△23.5	△35.2(△23.5)
卸・小売	△22.7	△27.2	△20.8	△15.0	△14.2	△19.0	△14.2(△14.2)
サービス	△30.7	△43.7	△35.7	△26.6	△23.5	△30.7	△23.0(△23.5)





【平成29年7月の資金繰りについての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲5.6)となり、マイナス幅が4.4ポイント拡大した。

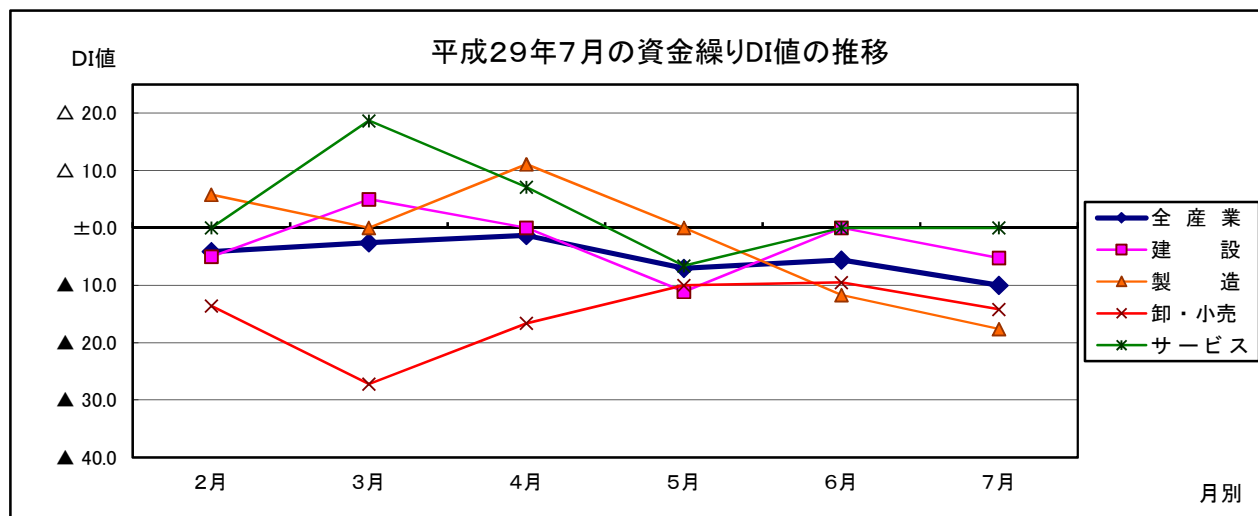
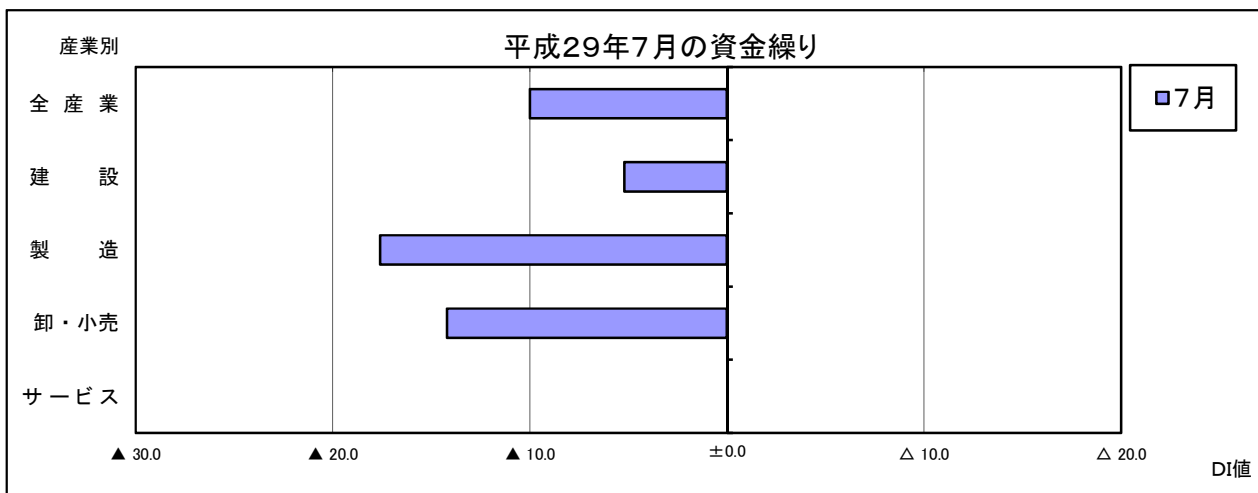
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.6(同▲11.7)、建設業▲5.2(同±0.0)、卸小売業▲14.2(同▲9.5)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲5.6)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同▲5.8)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)、卸小売業▲23.8(同▲23.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲5.2(同△12.5)である。

平成29年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲4.1	▲2.6	▲1.3	▲7.0	▲5.6	▲10.0	▲8.5(▲5.6)
建設	▲5.0	△5.0	±0.0	▲11.1	±0.0	▲5.2	▲5.2(△12.5)
製造	△5.8	±0.0	△11.1	±0.0	▲11.7	▲17.6	±0.0(▲5.8)
卸・小売	▲13.6	▲27.2	▲16.6	▲10.0	▲9.5	▲14.2	▲23.8(▲23.8)
サービス	±0.0	△18.7	△7.1	▲6.6	±0.0	±0.0	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 15.7	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 28.5	▲ 28.5	△ 18.5	△ 21.4
建設	▲ 21.0	△ 25.0	▲ 31.5	△ 6.2	▲ 21.0	▲ 26.3	△ 5.2	△ 15.7
製造	▲ 5.8	△ 5.8	▲ 17.6	▲ 5.8	▲ 29.4	▲ 23.5	△ 23.5	△ 35.2
卸・小売	▲ 33.3	▲ 28.5	▲ 23.8	▲ 38.0	▲ 47.6	▲ 42.8	△ 19.0	△ 14.2
サービス	△ 7.6	▲ 11.7	±0.0	▲ 5.8	▲ 15.3	▲ 15.3	△ 30.7	△ 23.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 11.4	▲ 12.8	▲ 10.0	▲ 8.5
建設	▲ 10.5	▲ 15.7	▲ 5.2	▲ 5.2
製造	△ 5.8	△ 11.7	▲ 17.6	±0.0
卸・小売	▲ 28.5	▲ 28.5	▲ 14.2	▲ 23.8
サービス	▲ 7.6	▲ 15.3	±0.0	±0.0

【平成29年7月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピックス	業種
建設	8月は休みも多いため売上減少するとは思いますが、今月は前年同月比と同水準を維持できました。	前年維持 売上減少	内装工事業
製造業	紙の値段がまた上がります。紙が上がるからと印刷物も値上げする事は出来ない。利益追求どころか赤字にならない様にする事で考え方がせまくなり目先の事に神経がいつてしまう。	仕入上昇 価格転嫁 先行き不安	印刷業
	6月度に特注があり、その分を除けば不変水準です。	受注増加 前年維持	金属素形材製品製造業
	医療向け遮蔽製品の受注、引合いともに順調。原料価格は相場の影響により不安定が続いている。	受注好調 仕入不安定	特殊産業用機械
	中国の設備投資、半導体製造設備、自動車製造設備の増加により、電気部品だけでなくメカ部品にまで品薄状態が波及。機械納期に大きな影響を及ぼしている。	部品品薄 納期影響	その他の機械・同部品製造業
	受注は増加傾向にあるが、単価の値下げ要望があり、採算は変わらない	受注増加 単価下落 採算不変	その他の金属製品製造業
	現在の景況では従業員を増加することは出来ない。増加すれば、社会保険・税金などで資金繰りが追い付かない。運転資金の借入は生産的ではないと思っている。	人件費増 資金繰り	印刷業
卸小売	梅雨とは思えない天候と気温上昇もあり、水着関連は売上を伸ばしたが、それ以外の衣料品については低迷、原因は暑さで客数が減る傾向となった。酒関連は今年6月からの「酒税法改正」により今までの安売りが出来なくなったが、暑さもあまりさほど影響は出ていない。柏まつりは二日間曇天と気温が上がらない影響で飲料、ビールの売上は昨年の半分と低迷、焼き鳥などの惣菜は前年より売れたが全体では前年比92%の状況となった。	天候不順 気温上昇 夏物商戦 衣料低迷 酒販好調 イベント低調	その他の各種商品小売業
	夏のバーゲンが縮小傾向にある。高温日が多く、一部(夏限定)の商品を除いて全体的に不調。	夏物商戦 気温上昇 売上減少	その他の各種商品小売業
	人手不足の影響で今後のコストアップの懸念がある。	人手不足 コスト増加	各種食料品小売業
	前月に続いて冷菓の売上が好調。イベントの季節なのでそちらも期待！	夏物商戦 イベント期待	菓子・パン小売業
	業界では町場の店で社会保険問題があるようです。	社会保険	菓子・パン小売業
サービス業	売上増、回収の間違いない掛け売り増ですが、資金繰りが大変。このため借入金と金利負担の増額あり。人手不足の影響で退職者が出て事業に支障の無いように剰余従事者の採用を取り入れているのでこの分社員2名分ほどの人件費増で厳しい。それでも人手不足は深刻です。キャンパス駅、おたかの森駅、周辺に続々とスーパー、ホームセンターの出店と出店計画あり。今後の業績が心配。	売上増加 資金繰り厳しい 人手不足 人件費増 大型店出店	その他の飲食料品小売業
	個人需要:IS・テロ不安により昨年まで不振だったヨーロッパが復調傾向にある。反面、北朝鮮の動向を気にされ、韓国への旅行を控える傾向に。法人需要:企業の社内研修案件の引き合いが増えている。コミュニケーション強化やホスピタリティーがテーマとして取り上げられている。	旅行好調 企業研修増加	旅行業
	猛暑のせいでお客様からの問い合わせが減っています。それにより賃貸・売買ともに低調です。同業者から当社への不動産案件の買取依頼が増えています。	気温上昇 不動産不調	不動産管理業
	柏駅前是一部の人が言うほど落ち込んではいません。他力本願の企業・お店が悪化しているだけです。通行量ではないです。	駅前不変	不動産賃貸業
	地価高騰も二極化で限定的。昨今の金融政策の結果であると思っています。それに伴う消費経済の上昇は感じないながらも下落感も感じないので安定している経営状態と判断しています。	不動産安定	不動産賃貸・管理業

## 平成29年7月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.4に対し、「CCI-LOBO」が▲16.1で柏の方がマイナス幅が4.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方がすべての業種で良く、製造業では、10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲10.0で柏の方がマイナス幅が5.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。すべての業種で悪く、建設業・製造業では10ポイント以上悪い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.0に対し、「CCI-LOBO」が▲14.2で柏の方がマイナス幅が5.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業・サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業であり、建設業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.5に対し、「CCI-LOBO」が▲31.1で柏の方がマイナス幅が2.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業であり、建設業・サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△18.5に対し、「CCI-LOBO」が△21.2で柏の方がプラス幅が2.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、建設業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲7.2で柏の方がマイナス幅が2.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業であり、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業である。

# 柏の景気情報

(7月の調査結果のポイント)

調査期間：平成29年7月26日～8月1日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に  
ヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲22.2	▲20.0	△5.8	▲45.4	▲23.0
3月	▲13.3	▲10.0	△5.8	▲50.0	△12.5
4月	▲20.5	▲17.6	▲11.1	▲41.6	±0.0
5月	▲23.9	▲27.7	▲22.2	▲35.0	▲6.6
6月	▲16.9	▲18.7	△5.8	▲38.0	▲11.7
7月	▲11.4	▲10.5	△5.8	▲28.5	▲7.6
見通し	▲12.8	▲15.7	△11.7	▲28.5	▲15.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

## 柏市の業況

業況D Iは2ヶ月連続で好転。先行きは懸念材料多く、横ばいで推移する見通し

7月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が5.5ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.5(同▲38.0)、建設業▲10.5(同▲18.7)、サービス業▲7.6(同▲11.7)である。

変わらない業種は、製造業△5.8(同△5.8)である。

【建設業】からは、「7月は前年同月比で同水準を維持できました。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「紙の値段がまた上がる。紙が上がるからと印刷物も値上げする事は出来ない。利益追求どころか赤字にならない様にする事で考え方がせまくなり目先の事に神経がいつてしまう。」(印刷業)、「原料価格は相場の影響により不安定が続いている。」(特殊産業用機械)、「中国の設備投資・半導体製造設備・自動車製造設備の増加により、電気部品だけでなくメカ部品にまで品薄状態が波及。機械納期に大きな影響を及ぼしている。」(その他の機械・同部品製造業)、「受注は増加傾向にあるが、単価の値下げ要望があり、採算は変わらない。」(その他の金属製品製造業)、「現在の景況では従業員を増加することは出来ない。増加すれば、社会保険・税金などで資金繰りが追い付かない。運転資金の借入は生産的ではないと思っている。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「前月に続いて冷菓の売上が好調。イベントの季節なのでそちらも期待！」(菓子・パン小売業)、「業界では町場の店で社会保険問題があるようだ。」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「売上増・掛売り増ですが、資金繰りが大変。このため借入金と金利負担の増額あり。」(その他の飲食料品小売業)、「柏の葉キャンパス駅、流山おおたかの森駅、周辺に続々とスターバード、ホームセンターの新店と出店計画あり。今後の業績が心配。」(その他の飲食料品小売業)、「個人旅行では、北朝鮮の動向を気にされ、韓国への旅行を控える傾向。」(旅行業)、「柏駅周辺は、他力本願の企業・店が悪化しているだけで、一部の人が言うほど落ち込んでいない。通行量ではない。」(不動産賃貸業)、「地価高騰も二極化で限定的。昨今の金融政策の結果であると思う。それに伴う消費経済の上昇は感じないながらも下落感も感じないので安定している経営状態と判断する。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

## 7月の景気キーワード

### ◎天候不順(猛暑)

・夏物商戦

各業種より、「梅雨とは思えない天候と気温上昇があり、水着関連は売上を伸ばしたが、それ以外の衣料品については低迷。原因は暑さで客数が減る傾向となった。」(その他の各種商品小売業)、「酒関連は今年6月からの、酒税法改正により今までの安売りが出来なくなつたが、暑さもあり、さほど影響は出ていない。」(その他の各種商品小売業)、「夏のバーゲンには縮小傾向にある。高温日が多く、夏限定商品を除いて全体的に不調。」(その他の各種商品小売業)、「猛暑のせいでお客様からの問い合わせが減っている。それにより賃貸・売買ともに低調。」(不動産管理業)との声が寄せられた。

### ◎人手不足

各業種より、「人手不足の影響で今後のコストアップの懸念がある。」(各種食料品小売業)、「人手不足の影響で退職者が出て事業に支障の無いように剰余従事者の採用を取り入れているので、この分の社員2名分ほどの人件費増で厳しい。それでも人手不足は深刻。」(その他の飲食料品小売業)との声が寄せられた。

### ◎CCI・LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲11.4に対し、「CCI・LOBO」が▲16.1で柏の方がマイナス幅が4.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方がすべての業種で良く、製造業では、10ポイント以上良い。

### ◎仕入単価上昇

各業種より、「紙の値段がまた上がる。紙が上がるからと印刷物も値上げする事は出来ない。」(印刷業)、「原料価格は相場の影響により不安定が続いている。」(特殊産業用機械)との声が寄せられた。

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (7月速報)

調査期間：平成29年7月13日～20日

調査対象：全国の423商工会議所が3530企業  
にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIの改善は、足元で一服。先行きは懸念材料払拭できず、横ばい圏内。

7月の全産業合計の業況DIは、▲16.1と、前月から▲1.6ポイントの悪化。卸売業を中心に運送費の増加を価格転嫁できないとの声が多く寄せられたほか、人手不足の影響や消費者の節約志向、さらに、九州等での大雨の影響により、サービス業、小売業の業況感が悪化した。他方、電子部品、自動車関連の好調な生産や、建設・設備投資の堅調な動きに加え、インバウンドを含めた観光需要は底堅く推移している。中小企業の景況感は総じて持ち直しに向けた基調が続いているものの、足元で一服感がみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲15.5（今月比+0.6ポイント）とほぼ横ばいを見込む。輸出や設備投資の堅調な推移、インバウンドを含めた夏の観光需要や飲食料品・日用品を中心とした夏物商品の消費の拡大に期待する声が聞かれる。他方、人手不足の影響拡大に加え、消費者の節約志向、運送費・原材料費の上昇分の価格転嫁など、先行きへ

の懸念材料を指摘する声も多く、中小企業の業況感は横ばい圏内で推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業で改善、製造業でほぼ横ばい、その他の3業種で悪化した。

【建設業】「公共工事の発注量が多く、売上は改善した。

また、人件費や建設資材価格の上昇分について価格転嫁できており、採算も改善傾向にある」（建築工事業）、「多くの技術者が他社へ流出し、受注機会の損失が生じている。また、価格競争が厳しく、適正利益の確保も難しい」（管工事業）

【製造業】「半導体や建設機械関連からの引き合いが強くなり、売上は改善した。特にOEM生産の受注が豊富であるため、今後も売上の改善が見込める」（電気機械製造業）、「不漁による原料価格の高騰に加え、運送費も値上がりしている。他方、販売先からはコストダウン要請が厳しく、コスト上昇分の価格

転嫁は容易ではない」（水産食料品製造業）

【卸売業】「建設業からの引き合いは多いが、人手不足に伴う人件費や外注費の上昇、運送費の値上げにより、採算が大幅に悪化した」（建築材料卸売業）、「暑い日が続いていることもあり、アイスクリームの売上が好調。高級感を打ち出した大人向けアイスも売上を伸ばしている」（食品卸売業）

が、人件費の上昇に伴い利益が圧迫されている。取引先と運送費改訂の交渉を進め、改善を図りたい」（運送業）、「インバウンドのみならず国内観光需要が堅調で、売上は改善した。これから夏休みに入り、さらなる売上改善が見込める」（宿泊業）、「人手不足が深刻なため、パートの時給を正社員の給与水準以上に引き上げたが、それでも応募があるか不安だ」（飲食業）

【小売業】「消費者はインターネットでの販売価格を基準に購入を検討するので、低価格競争に陥っている。実店舗

ならではの付加価値を創造し、売上改善を図っていく」（スポーツ用品店）、「化粧品や日用品を中心にインバウンド需要は好調。クリアランスセールを前年に比べ前倒しで実施したことも消費者の需要をとらえ、売上は堅調だ」（百貨店）、「6月末から7月中旬にかけて雨の日が多く、客数が減少し、売上は悪化した。九州北部では、大雨の被害を受け、消費等への自粛ムードが感じられる」（雑貨等小売業）

【サービス業】「夏に向けて飲料品の出荷は増加している

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲24.0	▲14.6	▲17.1	▲32.5	▲40.4	▲18.6
3月	▲20.1	▲9.6	▲12.8	▲24.2	▲40.5	▲14.7
4月	▲17.3	▲10.6	▲11.3	▲18.9	▲33.0	▲12.5
5月	▲16.2	▲15.8	▲12.2	▲12.0	▲36.5	▲5.4
6月	▲14.5	▲14.3	▲8.6	▲8.6	▲32.1	▲3.8
7月	▲16.1	▲13.3	▲9.5	▲11.9	▲33.9	▲11.7
見通し	▲15.5	▲9.2	▲14.0	▲9.9	▲29.0	▲12.6